

人イノタビユニ

画期的な多くの開発で、日本農業発展に貢献したアイデアと努力の人。

(株)ササキコーポレーション相談役

佐々木 忠一さん (73歳)

忠一さんの祖父である佐々木忠次郎氏（十和田市藤島出身）が、明治34年北海道石狩国空知郡沼貝村光珠内（現美唄市）で、プラウの製造に成功。美唄市の町史には偉業に対する感謝の言葉がつつづられている。旺盛な好奇心とものづくりの情熱にかけては人一倍強く、未知への挑戦と類まれな創造精神は素晴らしかったという。忠次郎氏は刃物鍛冶修行終了の証として宮本豊國師匠から掛け軸一卷と鍛冶名「一鉄」をもらう。終戦の折、旧満州から日本へ脱出するとき、祖父に言われた言葉

は「不動明王がついているから心配するな」。不動明王は鍛冶の神様といわれるが、これが座右の銘「把手共行」の基となっている。

昭和35年、十和田市の「佐々木農機株式会社」設立時、会長には父四郎氏、代表取締役社長には、忠一さんが就任した。昭和63年からは会長職に就き、その後相談役となっている。

発明工夫の分野で数々の受賞をした忠一さんは平成4年春、黄綬褒章を受章し、平成14年秋の叙勲で勲五等瑞宝章を受章した。

社業を引退後、社内に「手づくり工房」を造り、鍛冶技術の伝承をしながら、県南地域では初めてとなる、県人事委員長の要職を含め10以上の役職を一身に受け、多忙を極めている。生涯現役を自負する忠一さんの趣味は、都々逸の作詩と漢詩の詠まれた処を妻・悦子さんと訪ね歩くことである。

社業を引退後、社内に「手づくり工房」を造り、鍛冶技術の伝承をしながら、県南地域では初めてとなる、県人事委員長の要職を含め10以上の役職を一身に受け、多忙を極めている。生涯現役を自負する忠一さんの趣味は、都々逸の作詩と漢詩の詠まれた処を妻・悦子さんと訪ね歩くことである。

自ら創作活動に打ち込む忠一さん



詩人・陶淵明の著した『桃花源記』石碑前にて

座右の銘

「把手共行」

共に手を取り歩んで行くこと

問い合わせ先

総務課文書広報係 (☎051111内線150)

受賞歴

- 昭和45年11月 科学技術庁長官奨励賞受賞
- 46年9月 発明協会会長奨励賞
- 56年10月 中小企業庁長官奨励賞受賞
- 平成3年4月 科学技術庁長官賞・科学技術振興功績賞表彰受賞
- 4年4月 黄綬褒章授章
- 4年10月 発明協会実施功績賞受賞
- 5年2月 十和田市褒章受賞
- 8年2月 発明協会奨励功労賞受賞
- 10年12月 青森県褒章受賞
- 14年11月 勲五等瑞宝章受賞
- 15年6月 発明奨励功労賞受賞
- 19年6月 警察庁長官より協力徽章受賞

公職歴

- 青森県産業技術開発会議委員・青森県地域研究者養成事業推進会議委員・十和田市民生委員推薦会委員・青森県工業振興推進会議委員・青森県文化観光立県推進会議委員（副会長）・青森県総合開発審議会委員・青森県産業科学技術会議委員・青森県青少年の科学する心育成会議委員・クリスタルバレイ構想検討委員会委員・東北新幹線青森県開業産業振興対策協議会委員・青森県職業能力開発審議会委員・青森県中小企業振興審議会委員・青森県総合開発審議会会長・文部科学大臣辞令・弘前大学運営諮問会議委員副会長・青森県人事委員長
- 団体職歴**
- 十和田警察官友の会会長・社団法人青森県農業経営研究協会理事・社団法人発明協会青森県支部理事・社団法人発明協会青森県支部副支部長・十和田市発明協会会長・十和田市少年少女発明クラブ会長・青森県産業教育振興会副会長・財団法人21おおもり産業総合支援センター理事・社団法人発明協会理事（評議員）・弘前大学地域共同センター産業官連絡協議会委員・青森県警察友の会連合会副会長・財団法人青い森みらい創造財団理事・社団法人青森県工業会会長（顧問）